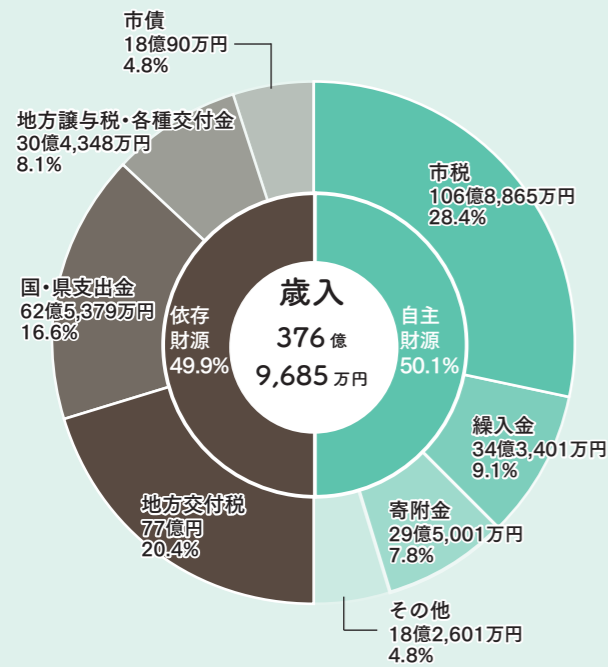


# 燕市の 一般会計当初 予算

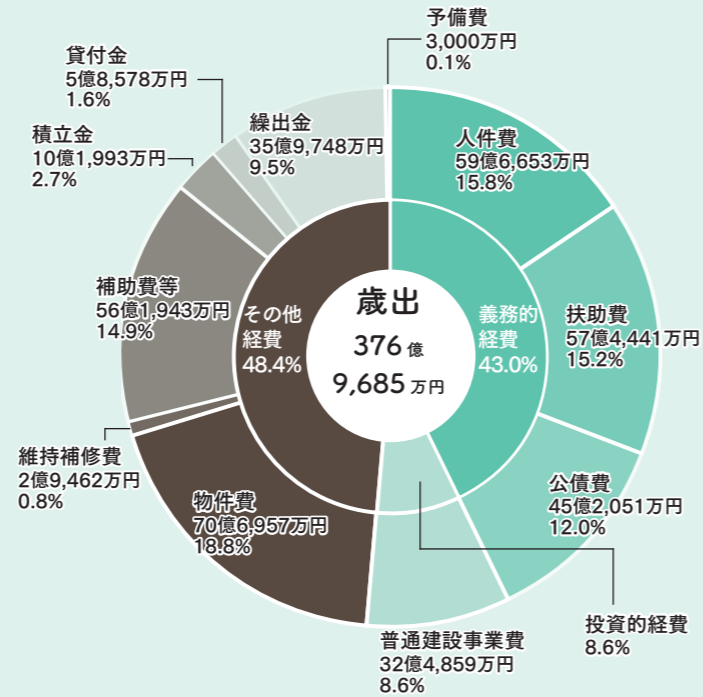
総額 **431億9,000万円**  
 実質的な  
 予算規模 **376億9,685万円**

一般会計当初予算の総額は、431億9,000万円です。借換分を除く実質的な予算規模は、前年度比7億8,846万円減の376億9,685万円となっています。また、令和4年度の国庫支出金を活用した「繰越事業」18億5,299万円を合わせた執行ベースの予算規模は、395億4,984万円と合併後最大となっています。

## 歳入の状況



## 歳出の状況 (性質別分類)



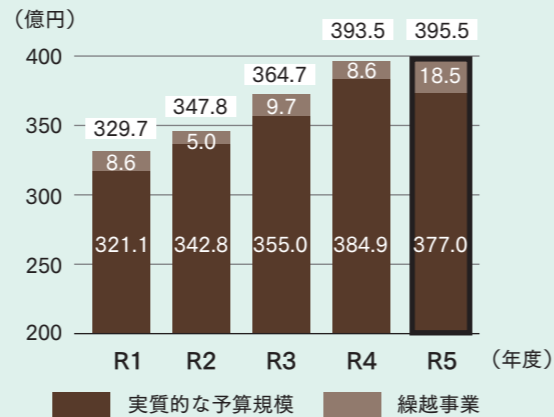
### 用語説明

自主財源 … 市が自主的に収入できる財源  
 依存財源 … 国または県などから収入される財源  
 義務的経費 … 支出することが義務付けられている経費  
 投資的経費 … 道路や施設などの整備に要する経費  
 借換債 … すでに発行した市債を借り換えるもので、借入額と返済額を歳入歳出同額で予算計上

### 一般会計当初予算

区分	番号	予算額	前年度比
一般会計	①	431億9,000万円	▲ 5.2%
①のうち借換分	②	54億9,315万円	▲ 22.2%
実質的な予算規模	①-②	376億9,685万円	▲ 2.0%
繰越事業	③	18億5,299万円	115.3%
執行ベースの予算規模	①-②+③	395億4,984万円	0.5%

### 執行ベースの予算規模の推移



～ 第3次燕市総合計画の初年度、幸先の良いスタートを！～

# 令和5年度 施政方針

3月2日、市議会定例会で市長が施政方針演説を行いました。その中から、当初予算額や重点施策などポイントを絞ってお知らせします。

## 昨

年を振り返りますと、長引くコロナ禍の影響がある中、ロシアのウクライナ侵攻に端を発するエネルギー価格や物価の高騰が、追い討ちをかけるように我々の生活に大きく影響を及ぼした1年でした。こうした足元の課題に対応するため、本市では、立って続けるため、本市では、水道料金の基本料金を8カ月間減免やフェニックスクーポン第4弾、第5弾の発行といった市民生活や経済活動を下支えする対策を講じつつ、住民税非課税世帯への光熱水費等の助成、子育て中のすべての世帯に対する現金給付、学校等給食費の負担軽減など、低所得者や子育て世帯への

## そ

うした中、コロナ禍からの社会経済活動の回復が進みつつあり、自主財源の根幹をなす市税収入は、感染症拡大前の水準には回復していないものの緩やかな持ち直しの動きがみられています。しかしながら、電気料金等価格の高騰により、公共施設においても維持管理経費が増加しており、施設の老朽化対策や社会保障関

## 新

たに迎える令和5年度は、第3次燕市総合計画の初年度にあたる大切な年になります。先人たちが築き上げてきた燕市を次の100年

支援、さらには公的サービス事業所等に対する燃料・電気料金高騰への支援のほか、農業者に対する肥料価格高騰への支援など、きめ細かく本市独自のさまざまな対策を打ち、影響緩和に努めてまいりました。

連経費の増といった従前からの財政負担の増加要因も相まって、厳しい財政状況が続いています。一方、昨年は大河津分水通水100周年の年ということでも、30以上に及ぶ事業を行い、大河津分水建設の意義や果たしてきた役割、そして建設に携わった長善館の門下生をはじめとする多くの先人たちの情熱や苦勞、功績といったものを市内外に広く発信することができた年でもありました。

に引き継いでいくための幸先の良いスタートを切れるよう、限られた経営資源を効率的・効果的に配分する方針のもと、「定住人口戦略」、「活動人口戦略」、「交流・応援(燕)人口戦略」の3つの人口減少対策を柱に据えた予算編成を行いました。特に、「子育てするなら燕市で」と評価される施策の展開と「地域社会のDX」と「脱炭素社会の推進」を重点に、急速な人口減少や本市を取り巻く社会潮流に対応した各種施策に取り組んでまいります。

施政方針の全文はこちら



●子育てするなら燕市で  
 と評価される施策の展開  
 ●地域社会のDXと  
 脱炭素社会の推進  
 を2大重点施策として取り組んでまいります。

